

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
0 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境			0.40			3.1
1 音環境		2.0	0.15	2.4	1.00	2.1
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40	
1.1.1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00	
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		1.6	0.40	2.5	0.40	
1.2.1 開口部遮音性能		1.0	0.40	1.0	0.30	
1.2.2 界壁遮音性能		2.0	0.60	2.0	0.30	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	専)個室でLr値=45	-	-	4.0	0.20	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)	専)個室でLr値=50	-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		2.6	0.35	2.7	1.00	2.6
2.1 室温制御		2.2	0.50	2.4	0.50	
2.1.1 室温		1.0	0.38	2.0	0.57	
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
2.1.3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
2.1.6 個別制御		-	-	-	-	
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
2.1.8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		3.2	0.25	4.1	1.00	3.6
3.1 昼光利用		3.6	0.30	4.2	0.30	
3.1.1 昼光率	診)機能訓練室で2.0%以上2.5%未満・(待)食堂で2.0%以上、専)個室で1.25%以上確保	4.0	0.60	5.0	0.60	
3.1.2 方位別開口		-	-	-	-	
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.30	
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
3.2.2 昼光制御	専)個室でカーテン+庇	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.2.3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		2.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御	診)機能訓練室・(待)食堂で1スパンごと、専)個室で照明ごとにON-OFF可能	5.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気質環境		4.0	0.25	4.1	1.00	4.0
4.1 発生源対策		5.0	0.50	5.0	0.63	
4.1.1 化学汚染物質	内装材はF 建材を全面的に使用し、かつホルムアルデヒド以外のVOCにも同様に配慮	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	2.6	0.38	
4.2.1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効な窓を設置(1/15以上確保)	-	-	4.0	0.33	
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	1.0	0.33	
4.2.4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
4.3.1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
4.3.2 喫煙の制御		3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.7
1 機能性		1.6	0.40	3.8	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1.1.1 広さ・収納性	専)個室で10m ² /床以上確保	-	-	5.0	1.00	
1.1.2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
1.1.3 バリアフリー計画		1.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	
1.2.1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
1.2.2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
1.2.3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1.3.1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
1.3.3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
2.1.1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.33	-	-	
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用	5.0	0.15	-	-	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23	-	-	

2.4	信頼性		3.6	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	グリーン購入法対応の衛生器具、排水系統の細分化	4.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	非常用発電機、電源設備・精密機器を地上階に設置	4.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	デジタルコードレス電話機・光ケーブル等通信の多様化、精密機器を地上階に設置	4.0	0.20	-	-	-
3	対応性・更新性		2.9	0.29	2.6	1.00	2.7
3.1	空間のゆとり		2.2	0.31	2.2	0.50	
1	階高のゆとり		1.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	共)壁長さ比率=0.23、専)壁長さ比率=0.28	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2	荷重のゆとり		3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3	設備の更新性		3.4	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	EPS、天井内転写配線・PF管配線により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	EPS、天井内転写配線・PF管配線により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.1
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	空地を設け道路からセットバックさせるなど圧迫感の軽減に配慮。植栽を使用した景観的配慮を実施等	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.2
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.0
1	建物の熱負荷抑制		2.0	0.30	-	-	2.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3	設備システムの高効率化	高効率設備を中心に採用	4.1	0.30	-	-	4.1
	集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	ERR=18.5%	4.0		-	-	
	集合住宅の評価		3.0		-	-	
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.7
1	水資源保護		3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水型便器や水栓を積極的に採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.8	0.63	-	-	3.8
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	タイル、ビニル床材、木材・プラスチック再生複合	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装が乾式工法で分別が容易、PS・天井内配管により設備との錯綜を回避、OA707採用	5.0	0.24	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.22	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮	運用時のLCCO2排出量低減に配慮している	3.5	0.33	-	-	3.5
2	地域環境への配慮		2.9	0.33	-	-	2.9
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内に駐輪場、搬入車両用スペース考慮等	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害・砂塵・日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	